5/14

法学部C常任委員会は訴える！

早急に自治会を再建しよう

すべてのクラス、どこでも討論し、自治会再建の炎を！

全市大の学友のみなさん！

新入生がその新鮮なエネルギーをもって、この市大のキャンパスにやってきてから約一ヵ月になろうとしている。〈大学とは何か〉〈自治会とは何か〉〈学生生活とはどういうものか〉など、新入生の心に浮かんでは消えていったようにみえる問いが、底深く沈殿していく。そして、素朴な詩のように、〈なぜ自治会がないのだ〉という疑問も、何回となく浮かんでくるのだ。そうだ。なぜ市大には自治会がないのか？自治会がないということは何を意味しているのか？

先日、法学部では、新入生歓迎実行委員会の主催のもとに新入生歓迎講演会(4/25)が400教室に於て、開催されていた。その途中に、あの有名な「全共斗」が、ゲバ棒で乱入してきたのである。市大の内部において、言論・集会の自由も守られない状態が依然として続いている。特に新歓講演会まで破壊してくるとは！「狂気はここまで成熟したか」である。また、ビラ貼りの禁止や教室の使用制限をはじめとして、学生の自主的な活動が抑圧されている。学生の権利がやすやすと踏みにじられ、それに「慣れっこ」にさせられてしまっている。授業に出ていけばマスプロ(公害問題講演は講堂でやっている。)で、人間味のある教育と言えるだろうか。一般教養科目が面白くないから、専門を安易に教養にかうしてきたり、学生の自主的な活動をやらせない教授会の態度(経済でのオリエンテーションの際のビラまき禁止)など、まさこに、中教審の先取りではないだろうか。(こうした法学部を前固はねかえし、学生の一つ一つの権利を守るためにも自治会の再建が早期に必要になってきている。

中教審をはじめとする政府の反動的な文教政策により、大学における勉学・生活条件はひどいものである。教員の数が圧倒的に少いとか、ゼミ室がないとか、蔵が少ない(ボロボロのがあるが)とか、食堂が小さいとか、あげればきりがない。そのひどい中でも特に文科系はひどい。我々学生が大学の中で教授と共に、学問を発展させていくという観点ではなくして、単に被教育者としてのみとらえるという考え方がその底に流れている。そして反動勢力は裏の裏まで計算された巧妙な手口で、内部からの自治破壊者と呼応しながら、大学の自治を奪うとやっきになっている。

以前の大阪市のアカ攻撃がそうであったし、昨年の国会内での大学立法の強行採決がそうである。また、政府が政治アレルギーの人間を作り出すことに専念している現在、安保・沖縄の問題について正しく認識する必要があるだろう。カラスの鳴かぬ日はあっても、沖縄からB52が飛ばぬ日はないというように、沖縄県民の生命、いや日本人すべての生命が、いつまた戦争によって奪われるかもしれないのである。平和を守るために、全民主勢力と団結し、安保破棄・沖縄全面返還に立ち上らなければならない。こうした諸々の斗いに取り組むためにも、市大4500名が団結することが必要だし、その要となるものがぜひともいるのである。

昨年は大学祭がなかった。思い出せるような、学生の自主的な活動がほとんど見当らない。封鎖の中で、活動が困難になり、つぶれていったクラブもあるという。学生がいろいろな自治活動の中に参加するということ――それは個人の主体性の確立といったことと不可分に結びついている。学生が積極的に自治活動に参加していく中で得るものは、授業だけでは決して得られない貴重なものがある。そうした意味においても学生の自主的な活動を発展させていくべき自治会が必要だと考えるわけである。

以上のように、我々のおかれている状況というものは確かにひどいものである。こうした無権利の状態を脱却し、一つ一つの権利を守り、獲得していくことは困難かもしれない。しかし、それにはどうしても自治会を再建しなければならないのである。自治会の下に、4500のエネルギーを結集すれば、かちとれないわけがあろうか！

法学部委員会は、すべての市大の学友に自治会の再建を呼びかける!!

ただちに各学部で、クラス・ゼミ討論をこの問題についておこなうように呼びかける!!

そして、この法学部委員会の呼びかけにこたえて、自治会再建の決意をどんどんあげていってほしいと思う。そうした高まりの中で学生大会を開き、自治会の再建をかちとろうではないか。

法学部委員会は学生の権利を守るために、その最前の先頭に立つものである。